

国際ボランティア学会第 12 回大会

文教大学湘南校舎で開催

国際ボランティア学会第 12 回大会が来る 2 月 19 日（土）および 20 日（日）文教大学湘南校舎で開催されます。今回は 19 日の共通論題セッションとラウンドテーブル、20 日のミリアム・ウエレ博士（ケニア・ウジマ財団：第 1 回の野口賞受賞者）講演会を参加費無料の一般公開セッションといたしましたのでふるってご参加ください。なお、それ以外のセッションも有料（非会員料金）となりますが、ご参加を歓迎いたします。なお、開催準備の都合上、ご参加ご希望の方は、事前にご連絡いただけると幸いです。

大会実行委員長 林 薫（文教大学国際学部教授）

E-mail : hayashi@shonan.bunkyo.ac.jp

FAX : 0467-54-3722

TEL : 0467-53-2111

開催概要

【日時】 2011 年 2 月 19 日（土）、20 日（日）

【会場】 文教大学湘南校舎

神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

東海道線茅ヶ崎駅もしくは小田急線・相鉄線・横浜市営地下鉄線湘南台駅よりバス 20 分

【全体テーマ】 ボランティアと市民社会

【大会スケジュール概要】

2 月 19 日（土）

10 : 00-12 : 00 分科会

12 : 00-13 : 30 ポスターセッション・その他イベント、理事会

13 : 30-15 : 30 共通論題セッション 「国際ボランティア年から 10 年」
（若い人々の自発的な行動がどのように市民社会を変えてきたか、
変えつつあるかを議論します）

15 : 30-17 : 30 ラウンドテーブル

17 : 30-18 : 15 総会

18 : 15-19 : 30 懇親会

2月20日(日)

10:00-12:00 分科会(パラレルセッション 各4報告 2本並行)

13:00-15:30 公開シンポジウム「未来をつくる市民とボランティア」(ミリアム・ウェレ博士)

＜講演会(公開シンポジウム)、共通論題セッション、ラウンドテーブルの一部は参加費無料の一般公開方式で実施します＞

【参加費】

・大会参加費(含む「発表要旨録集」代):

正会員:4,000円(事前申し込み3,000円)／学生会員:2,000円

臨時会員:4,000円(学生:2,000円)

懇親会費:正会員・学生会員とも3,000円(予定)

【ご案内】

2月19日(土)の昼食は学食をご利用ください。

2月20日(日)は学食が休業です。予めご持参いただくか、文教大学バス停から1分ほどのところにコンビニエンス・ストア(ファミリーマート)でご購入ください。

【交通等】

http://www.bunkyo.ac.jp/access/pdf/shonan_accessmap.pdf をご参照ください。

国際ボランティア学会 第12回全国大会プログラム

2月19日(土)午前

分科会－1 (10:00～12:00)

A(途上国での取り組み)6105 教室

座長： 桑名 恵(お茶の水女子大学)

- ・ ベトナムにおける CBR の取り組みの一考察・・・板東あけみ・柴田徹・西村陽子・内藤誠二・大野祐子・関谷滋・山本出(NGO ベトナムの子ども達を支援する会)
- ・ インドネシアにおけるストリートチルドレン問題へのとりくみ・・・西村美香・椎野信雄・林薫(文教大学大学院)
- ・ CSR 活動 王子ネピア「千のトイレプロジェクト」の現状と課題—東ティモール現地調査を踏まえて・・・齋藤智美(お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環)
- ・ 戦争で傷ついた子どもへの職業訓練支援・・・豊永優美(お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環)

B 会場(防災と環境)6319教室

座長： 中村安秀(大阪大学)

- ・ 国際災害対応法の生成と発展—国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)による「国際災害対応法計画(International Disaster Response Laws, Rules and Principles (IDRL Programme))」の実践を中心として・・・徳永恵美香(大阪大学大学院)
- ・ サイクロン被災時における避難意思阻害要因に関する質的・量的研究・・・日下部尚徳(大阪大学大学院)
- ・ 名古屋産業大学「緑の協力隊」10年間の活動記録と実践教育の歩み・・・河合武(名古屋産業大学)
- ・ 緊急教育支援のためのミニマムスタンダードについて—INEE2010改訂版・・・内海成治・中川真帆(お茶の水女子大学 グローバル協力センター)

2月19日(土)午後

昼休み(12:00-13:30)

理事会 (国際学部会議室)

ポスターセッション・学生活動紹介展示(6108教室)

各種イベントコーナー(6109教室)

共通論題セッション「国際ボランティア年から10年」

(13:30-15:30)6101 教室<一般公開>

「若い人々の自発的、能動的な動きが社会を変える」

座長: 長瀬慎治 (国連ボランティア計画 UNV)

- ・山元圭太(かものはしプロジェクト)
- ・開澤真一郎(NICE 代表)
- ・国連ボランティア OB
- ・Adelyn Kinaro 氏 (ウジマ財団)

ラウンドテーブル(15:30-17:30)6104教室

A 他人事から自分事へ (Voluntary Action in Education)

座長: 高橋真央(甲南女子大学)・竹端 寛(山梨学院大学)

B(市民社会とボランティア)<一般公開>6106教室

座長: 林 薫(文教大学)

総会(17:30-18:00)6101教室

懇親会(18:15-19:30)食堂2階

2月20日(日)午前

分科会—2 (10:00～12:00)

A 会場(気づきと学び)6105教室

座長:小川寿美子(名桜大学)

- ・ 国際ボランティア学のための教材・素材デポジトリの構築・・・山田恒夫・森本容介(放送大学)、川嶋辰彦・野呂純一(学習院大学)、小川寿美子(名桜大学)、内海成治(お茶の水女子大学)、伊藤由紀子(学習院女子大学)、中村安秀(大阪大学)
- ・ サービスラーニングにおける「振り返り」の視点と方法に関する一考察—プール学院大学の実践を事例として—・・・森定玲子・関綾子・加藤源太郎・マッセルホワイト・ダイアン(プール学院大学)
- ・ ボランティア観の再構築・・・千葉たか子(青森県立保健大学)
- ・ スポーツ活動を通じたアフリカの青少年の成長—ブルキナファソの特別教育研修センターの事例より—・・・藤丸健太郎(大阪大学大学院)

B 会場(市民社会とボランティア)6319教室

座長:内海成治(お茶の水女子大学)

- ・ 久留米まちづくりボランティアの課題・・・宮原信孝(久留米大学)
- ・ デンマークのボランティアセクター:「共同責任」と「生活の質」・・・坂口緑(明治学院大学)
- ・ ソーシャルファイナンスと国際協力・・・小柴巖和(UFJリサーチ・アンド・コンサルティング)
- ・ 討議型プラットフォームによる日本的市民討議の収斂—茅ヶ崎市市民討議会におけるフレーミングを事例に・・・沢田宣夫・山田修嗣・林薫(文教大学大学院)

2月20日(日)午後

昼休み(12:00-13:00)

ポスターセッション・学生活動紹介展示(6108教室)

各種イベントコーナー(6109教室)

講演会 (13:00～15:30) <一般公開>

- ・ ミリアム・ウェレ(ウジマ財団総裁・第一回野口賞受賞者)

ミリアム・ウェレ博士（野口英世賞受賞者）

野口英世アフリカ賞受賞 ミリアム・ウェレ博士講演 （第12回国際ボランティア学会、公開シンポジウム）

野口英世アフリカ賞は、ノーベル賞に匹敵する賞を目指し、アフリカでの感染症等の疾病対策の推進に資し、人類の繁栄と世界の平和に貢献することを目的に創設されました。その栄えある第1回野口英世アフリカ賞を受賞されたミリアム・ウェレ博士に、第12回国際ボランティア学会、公開シンポジウムで、「未来をつくる市民とボランティア（仮）」についてご講演いただきます。

ミリアム・ウェレ博士は、東アフリカの村々において、40年間にわたり地域レベルへの医療サービスの提供の実面に焦点をあて、女性、若者、子どもに対し、何百万人のアフリカと世界の人々に希望を与えてきました。コミュニティベースの典型的な活動事例は、地域の診療所に子どもたちを小グループに分けて予防接種に連れて行くことで、乳幼児の接種率を大幅に引きあげたことがあげられます。



実践も

ケニアで深刻な保健・社会問題になっている HIV/AIDS の対策では、若年層、売春婦、同性愛者などとの「直接対話」を通じた先駆的な取り組みを実施してきました。ケニア国家エイズ対策委員会委員長としても、強力なリーダーシップを発揮し、ケニアの HIV 感染率及び AIDS による死亡率の減少につなげています。

さらに、NGO 活動として、アフリカ最大の保健 NGO のアフリカ医療研究財団（AMREF）の理事長として、またウジマ財団の共同創設者および総裁として、市民社会の力を活用した農村部への医療サービス拡大に貢献しています。ウジマ財団では、若者こそが地域の発展の大きな鍵となるというミッションの下、若者のエンパワーメントに焦点を絞り、2 万人以上の若者グループに研修、職業訓練の機会を提供し、保健医療、平和等の問題に取り組んでいます。

今回の公開シンポジウムでは、ウェレ博士の長年の実践をもとに、アフリカにおける市民社会発の、女性や若者によるボランティアの大きなうねりについてお話いただく予定です。ウジマ財団の女性スタッフ、Adelyn Kinaro さんにもお越しいただき、19 日共通論題セッションにおいて、女性、若者の視点から、NGO やコミュニティの活動に参加する意義についてお話いただきます。

【略歴】1940 年ケニア生まれ。1981 年、米ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生学博士。ウジマ財団総裁、アフリカ医療研究財団会長、ケニア国家エイズ対策委員会委員長。2008 年、野口英世アフリカ賞受賞。ナイロビ大学医学部長、UNICEF エチオピア事務所、WHO エチオピア事務所代表、UNFPA エチオピア事務所所長を経て現職。アフリカ医療研究財団（AMREF）やウジマ財団での活動を通じ、同博士は、アフリカ大陸全体の人々にとってインスピレーションの源泉であり続けてきました。